

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-243427(P2010-243427A)

【公開日】平成22年10月28日(2010.10.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-043

【出願番号】特願2009-94664(P2009-94664)

【国際特許分類】

G 0 1 S 19/14 (2010.01)

G 0 1 S 19/35 (2010.01)

【F I】

G 0 1 S 5/14 5 3 1

G 0 1 S 5/14 5 5 3

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月31日(2012.1.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 7】

従って、周波数調整用カウンタ 19 の分周比を 1 0 0 回のうち 9 9 回だけ  $1 / 1 0 0 0 0$  とし、残りの 1 回は  $1 / 1 0 0 0 1$  とするように調整用タイミングカウンタ 22 を介して制御すると、周波数調整用カウンタ 19 の出力周波数の平均値は約  $1 0 0 0 . 0 0 0 0 0 0 0 9 8 9 9 \text{ Hz}$  ( $= 1 \text{ kHz} + 9 . 8 9 9 \times 1 0^{-8} \text{ Hz}$ ) となる。従って、これを 1 秒カウンタ 20 で分周して得られる 1 P P S の周波数は、 $1 \text{ Hz} + 9 . 8 9 9 \times 1 0^{-11} \text{ Hz}$  となる。なお、端数まで考慮して、正しく 1 k H z の信号及び 1 P P S 信号を得ることも可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 5】

一方、late 側のコード関連器の X O R 回路 43 には、GPS 受信機 11 が出力する 1 秒 P N コードと、P N コード発生器 36 が生成する内部 P N コードと、が入力される。ただし、P N コード発生器 36 から X O R 回路 43 に入力される内部 P N コードは、通常より P N コードの 0 . 5 チップ分だけ位相が遅くなっている（後述の late - P N コード）。X O R 回路 43 からの信号は、移動平均演算器 44 に入力される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 1】

第 2 分周器 35 は、第 1 分周器 34 から入力される 1 k H z の信号を  $1 / 1 0 0 0$  の分周比で分周して、1 H z の信号（1 P P S 信号）を生成する。第 2 分周器 35 が出力する 1 H z の信号は、P N コード発生器 36 にリセット信号として出力される。また、第 2 分周

器 3 5 が出力する信号は、1 P P S 信号（基準タイミング信号）として第 2 出力端子 5 9 に出力される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 5】

第 2 実施形態の基準周波数発生システム 7 1 において、G P S 受信機 1 1 x は、位相比較器 9 4 から得られた遅延量をそのままデジタルデータ化し、P N コードに重畳して基準周波数発生装置 5 1 x 側へ出力しても良い。この場合、それを受信した基準周波数発生装置 5 1 x の側で、2 で除算する処理を行うことになる。